JAPAN LEATHER AWARD 2014

革製品に見る ニッポンのものづくり

総合的なレザームーブメントの場として進化を続けている『ジャパン・レザー・アワード』。過去最高数の応募作品の中から、ここに2014年の受賞作品、そしてグランプリが決定した。

2014年、
ニッポンの革製品
No.1が決定しました!

2014
GRAND PRIX

「LEATHER JEWELS」
（レザージュエルズ）

ナチュラルなパイソンとヌメ革の色合いが柔らかな雰囲気を出している。女性らしく、軽やか、そしてつくり手の想いが細部にまで込められた、2014年グランプリ受賞作品

PROFILE

Name

磯田 秀文さん

Isoda Hidefumi

COMPANY

株式会社太閤
048-953-9602

STORY of GRAND PRIX

自己満足のものづくりから大きく羽ばたいた大賞作

「去年出品した作品は、自己満足だったよね。でも今年は、使う人や素材を考えてデザインしたことが伝わる良い作品になったと思うよ」

勤務する太閤の代表を務める大橋豊さんからそう言われると、磯田秀文さんはうつむいたまま、少し照れくさそうに「そうですね」と頷いた。

磯田さんが『ジャパン・レザー・アワード』に参加するのは、昨年に続き2度目。大橋さんから指摘された〝自己満足〟という点について改めて振り返ってもらうと、「自分の感性を前面に押し出すことはできたんです。でも、見せた人たちの感想は『面白い』ばかりで、『良いバッグだね』とは言われなかった。今考えると、誰かに使ってもらうという意識が欠けていました」。

前回の反省を踏まえてチャレンジした今回。まずは使う人の顔を想像することから始まった。思い浮かんだのは、母親の顔だった。磯田さんの母親と同じ60代の方にも使ってもらえるバッグをデザインしたい。持ったときにバッグそのものが際立つのではなく、洋服にも着物にも似合う色使いにしたい。ならば、パイソンのきれいな模様をそのままいかすのはどうだろう――。頭の中でイメージはどんどん膨らんでいった。

誰に相談するでもなくデザインを考案した前回とは異なり、今回は実際にバッグを制作する先輩の職人と何度も打ち合わせを重ねた。厳しい意見にも謙虚に耳を傾けた。

「一人で考えていると柔軟性がなくなってきますよね？　なので、今回はたくさんの先輩方にデザインの段階でアドバイスをいただきました。もちろん、100％誰かの意見を取り入れるというわけではなくて、良い部分はどんどん加えていこうと思いながらデザインしました」

今年の『ジャパン・レザー・アワード』のテーマは「革に込めたものがたり」だが、はからずも磯田さんの作品には、2つのストーリーが託された形となった。一つは母親への愛情。もう一つは磯田さん自身の成長の軌跡。二つの「ものがたり」が織り成すこのバッグは、グランプリにふさわしいと言えるだろう。

以前よりアパレル関係の仕事をしていた磯田さん。2年半前にエキゾチックレザーの製品を扱う同社に入社し、現在は生産管理の仕事に従事しているが、クリエイター志向は人一倍強く、仕事外の時間にモノづくりをすることも多いという。大橋さんも「努力するなら応援したい」と語る磯田さんの、今後のさらなる活躍に期待したい。

GRAND PRIX

エキゾチックレザー部門賞

1　2

1）革のなめし・染色は、隣接するグループ会社の太閤染革で行っている。2）磯田さんが担当・管理する革の種類は膨大

PROFILE

Name

永井 よしとさん

Nagai Yoshito

COMPANY

株式会社 ベルーリア
027-387-0308

長く一緒に時を刻む そんなモノづくりを。

「天然である革は、同じ種類のものでもそれぞれ個性が違うオンリーワンの素材です。毎回違う素材を扱うからこそ、手縫いで一針一針仕上げています」という永井さん。だからこそ「革の良さをいかすのはシンプルなデザインが一番」と考える。そうしてつき詰めたデザインが縫わないという製法。独学ではじめたモノづくり。だからこそオリジナリティのある製法が生まれた。「使い方によってもその人だけのオンリーワンになる革。だからこそ、より長く使える製品づくりを心がけています」。

「N25」

日本古来の建築技法「木組み」からヒントを得た無縫の財布。お金だけでなく、使う人の気持ちも優しく包みたいという想いを込めた。

ファッション雑貨部門賞

「KUREHA」

姫路のフルタンニンカウハイドを使用したレザージャケットはカリスマ的デザイナーの逸品。そこに精密につくり込まれた髑髏が新たな命を吹き込む。

革に特化した アクセサリーづくり。

吉野さんが目指すは“革装職人”。ボタン、ジッパーチャームなど、レザージャケットに特化した装飾アクセサリーを生み出す今までになかった視点のモノづくりの担い手だ。こだわりのモチーフは髑髏。「髑髏は人間の本性。ごまかしの効かないもの」と語る吉野さん。同じように天然であり、その品質をごまかせない革との相性は抜群だという。どちらか一方ではなく、組み合わせることで魅力は増幅する。「レザージャケットだけでなく、ベルト、手袋などにも挑戦していきたいですね」。

PROFILE

Name

齋藤 茂樹さん

Saito Shigeki

COMPANY

イケテイプロダクト株式会社
072-948-8681

職人としての経験と 父としての想いと。

「妻のトートバッグを持ったら思いのほか重くて」。子どもが生まれ、どこに行くにも赤ちゃんグッズ一式を持ち歩かなければいけない苦労を知った齋藤さん。そんな育児にパパももっと参加できるような鞄を自分のためにもつくろうと考案した。「サイドのファスナーポケットなど、実用的かつパパママ両用できるような軽くて柔らかい鞄を目指しました」。それでいてハードな使用にも耐えるつくり。仕事で修理を担当する齋藤さんだからこそ知る、耐久性のある機能も盛り込んだ。

「育men ズリー リュック」

背面の両サイドにファスナーポケット。両マチにあるホックを外すとバケツ型に変形し、トートとしても使える。ペイズリー×迷彩のデザインも魅力的。

レディーズバッグ部門賞

「MADOROMI」

コンセプトは「エッジ」。オリガミデザインによる多角的な光沢が見事だ。切れ目のない一枚カーフ仕上げ。持つと見た目以上の軽さと容量にも驚く。

靴職人が求めた 美しきバッグのカタチ。

鞄にも靴にも共通する大切な役割がある。それが覆うということ。使用目的だけでなく、つくる工程も同様。木型を覆う、芯材を覆う。「カタチあるものを覆うモノづくりが好きなんです」と語る内山さんはオーダーメイドの靴職人。その共通するコンセプトに気がつき、数年前より鞄づくりを始めた。覆うことで中身を守るだけでなく、見た目も美しく魅せる。靴づくりで培った技術を、また靴では表現できなかったアイデアを鞄づくりに込めた。そうして生まれたのがこのオリガミデザインのバッグだ。

PROFILE

Name

林 秀玲さん

Rin Shorin

COMPANY

有限会社 フューチャー
03-3865-1030

もっと多くの人に クロコの魅力を伝えたい。

「高価なクロコをもっと身近に」という想いで制作した林さん。林さんが勤めるフューチャーでは最近、クロコを求める若いお客さんが増えているという。ただ、やはりクロコはなかなか手がだしづらい。そんな人たちへの入門的な意味も込めて制作した。「カジュアルにも使いやすいデザインなので、使ってよりクロコの良さを感じてもらえれば」。そんな本作に使用しているのは、財布などにしづらいクロコの端部分。コストだけでなく、革を無駄なく使用できるというエコな面もあるのだ。

「GAUDIE」

マットとグレージングを交互に使用した、スタイリッシュなパッチワークが魅力のスリップオン。クロコの扱いに長けた熟練の職人による技が光る。

レディーズフットウェア部門賞

「BARCLAY」

穴飾りにラインストーンを施したドレスシューズ。日常のなにげない空間や瞬間に楽しみ・幸せ・感動を感じさせるような「煌めき」をテーマとした。

ずっと思い描いていた 理想の靴を自分たちの手で。

婦人靴の商品開発を担当する池田さんと小島さん。デザイナーがおこしてきたデザインをもとに、各パーツを設計するのが仕事だ。「履いてもらう方に幸せを感じてもらいたい」という想いを常に持ちながら靴と向き合う日々。そんなふたりがコンセプト、デザインから自分たちだけの手で挑戦したのが本作。「いつもつくっていないモノをつくってみたい。僕らの理想の靴をうまくカタチにできたと思います」と池田さん。小島さんは「革の魅力である使い込んで生まれる味も楽しんでもらいです」。

生活雑貨部門賞

PROFILE

Name

吉野 真由さん

Yoshino Masayoshi

COMPANY

ギャラリークレハ
080-4022-1229

メンズバッグ部門賞

PROFILE

Name

内山 友徳さん

Uchiyama Tomonori

COMPANY

MADOROMI
03-3985-8707

メンズフットウェア部門賞

PROFILE

Name

池田 悠二さん

Ikeda Yuji

小島 竜太さん

Kojima Ryuta

COMPANY

カワノ株式会社
078-631-1161

1）351点の作品が並んだ審査会場。2）審査会後に行われた交流会。3）グランプリは表彰式当日の発表となった今回。その瞬間、会場は独特の緊張感に包まれた。4）見事グランプリを獲得した磯田さん

新たな出会いと新たな刺激が革製品の未来を担う

開催7年目となる日本最大のレザーコンペディション『ジャパン・レザー・アワード』。その応募数は毎年増え続け、ついに今回350点を超えた。今回のテーマは〝革に込められたものがたり〟。商品のトレーサビリティが求められる昨今の消費現場だが、つくり手の想いが込められた革製品の制作現場では、そんな情報が物語になりえる。ただ丁寧で緻密で正確だけではない、ニッポンのモノづくりの魅力をあらためて教えてくれる、そんな物語性のある作品が集結した。

会場は昨年に続き、阪急うめだ本店。審査会、表彰式ともに多くの人が来場した。今年は審査会後に、「レザークラフトマンミーティング」と題した出品者の交流会を実施。普段なかなか出会う機会の少ないつくり手同士の横のつながりが生まれ、大きな盛り上がりをみせた。表彰式では審査員も務めたファッションエディターの干場義雅さんがコメンテーターとして登壇。本会主催代表である日本皮革産業連合会岩﨑幸次郎会長の「革製品における日本のモノづくりを、もっと外に発信する力を。レザーアワードを意識改革のきっかけとしてほしい」とのコメントに、「グローバルな視野を持ちながら、日本のオリジナリティをもっと伝えていきましょう」と干場さんはエールを送った。

世界へと進出する受賞者も多いジャパン・レザー・アワード。さらなる広がりを今後みせてくれることだろう。

喜び溢れる受賞者たち。この中から世界に羽ばたくつくり手が誕生するはずだ

審査員長

東京藝術大学 美術学部 工芸科 教授

菅野 健一さん

Sugano Kenichi

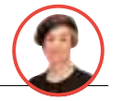
今年は昨年の応募数を上回り、日本らしい細やかさを感じさせる更にレベルの高い作品が、多数集まりました。応募者の皆様が全身全霊をかけて真剣に制作された作品ですので、我々審査員も、正に1点1点に心を込めて審査をさせていただきました。結果は本当に僅差です。このように素晴らしいレザー作品が多く集まるのを見ると、日本の皮革業界の勢いと底力を感じます。是非来年もたくさん方々にご応募いただき、皮革業界の発展を共に推進していければと思います。

ベストテーマ賞

「NAIADE帽子」

古い映画、昔読んだ洋雑誌、旅行で見たフード帽――。帽子作家の竹口さんが再現したのは、そんな記憶から始まる物語。

PROFILE



Name

竹口 真由美さん

Takeguchi Mayumi

COMPANY

アトリエ naiade-chapeau
tmayumi@estate.ocn.ne.jp

トレンド賞

「PORTER」

純国産豚に迷彩柄をエンボスし、革の新たな魅力を表現。口元をロールトップ仕様にすることで革の柔らかさもいかした。

PROFILE

Name

山下 めぐみさん

Yamashita Megumi

COMPANY

株式会社 吉田
03-3862-1021

PROFILE

Name

木村 和哉さん

Kimura Kazuya

SCHOOL

エスペランサ靴学院

想いを情熱に職人への道を進む。

高校時代、周囲のおとなが履く靴を見て「もっといい靴を履いてもらいたい！」と思い、ファッションの中でも特に好きだった靴のつくり手になることを決めた。美しい靴づくり。それは見た目だけでなく、つくりの良いことが欠かせない。そのために一心不乱に技術の向上に努め続けている木村さん。「学生がデザインでなく、実物で勝負できるコンペディションってなかなかないんです」。だからこそ、今まで学んだ全てを出せると出品。そして結果を残した。ビスポーク職人の道が開けた。

「外羽根式ウィングチップ」

革の素材感をいかすシンプルなデザインながら、緻密な手縫い技術、底面、ヒール形状まで細部のディテールにこだわりぬき、気品のある佇まいを実現。

学生部門賞

エコレザー部門賞

「ABALLI」

空色のエコレザーと、虹色の持ち手ファスナーのコンビネーションがなんとも爽やかなポーチ。「夕焼け」「お月見」といったシリーズ展開を構想中。

新しい制作環境が爽やかな作風を呼び込んだ。

今回で2回目の受賞となる加藤さん。前回の受賞作品、またこれまでつくってきた製品はどちらかといえばメンズよりの少し尖ったデザインだった。「実家のある新潟に新しく工房を構えました。そんな環境の変化も影響していると思います」。姪の入学祝いにと制作したバッグ。持ち手のアーチ→虹→青空と連想していき、より清らかな自然との触れ合いをイメージできるようエコレザーを採用。持つだけで優しくなれるようなそんなバッグは、加藤さんの心境の変化から生まれたのかもしれない。

PROFILE

Name

加藤 光也さん

Kato Mitsuya

COMPANY

革工房アバッリ
info@aballi.jp

受賞作品の展示について

受賞作品は国内4か所の百貨店などにおいて展示を行います。

東京・渋谷

12月4日（木）～10日（水）

（2014年）

渋谷ヒカリエ

住所：東京都渋谷区渋谷
2-21-1
開催場所：8階
渋谷ヒカリエ8/（ハチ）
ショーケースaiima
（アイーマ）
http://www.hikarie.jp

大阪・梅田

1月21日（水）～27日（火）

（2015年）

阪急うめだ本店

住所：大阪府大阪市北区
角田町8-7
開催場所：10階
うめだスーク中央街区
http://www.hankyu-dept.co.jp

東京・日本橋

2月4日（水）～10日（火）

（2015年）

日本橋三越本店

住所：東京都中央区日本橋
室町1-4-1
開催場所：本館7階
はじまりのカフェ
http://mitsukoshi.mistore.jp/store/nihombashi/

東京・銀座

2月20日（金）～26日（木）

（2015年）

TIME & EFFORT

住所：東京都中央区銀座
8-5-4
http://timeandeffort.jlia.or.jp

JLIAの活動のご紹介

About JLIA

一般社団法人 日本皮革産業連合会（JLIA）とは、皮革および革製品の生産・流通・貿易に関する各種施策の総合調整・技術開発・普及啓発などを実施することにより、皮革産業の総合的な振興・発展および連帯強化を図り、もって我が国産業の発展および国民生活文化の向上に寄与することを目的に、1986年に設立された総合団体です。現在、皮革関係26団体を会員として活動しています。

銀座 革のショールーム「TIME & EFFORT」

国内外の消費者やバイヤーなどに日本の皮革および革製品の品質やモノづくりの良さを伝え、ジャパンブランドの確立、向上、普及促進を図るためのショールーム。

Kids' Leather Programs

小さい頃から革に触れ、革製品づくりを体験できる機会を提供することで、本物の革の良さ、革に対する正しい知識、革製品づくりの楽しさなどを知ってもらうこども向けプログラム。

『日本の革』

消費者に日本の皮革および革製品の魅力を広く伝えることを目的に毎年発刊。日本ならではの優れた感性や高い技術とともに、モノづくりにひたむきな職人にもフォーカスしながら、ジャパンブランドの魅力を発信。

技術認定制度

日本の皮革技術に対する社会一般の評価を高め、職人の技能と社会的・経済的地位の向上を図るとともに、皮革産業の未来を担う後継者を育成している。

一般社団法人 日本皮革産業連合会（JLIA）
JAPAN LEATHER AND LEATHER GOODS INDUSTRIES ASSOCIATION
www.jlia.or.jp